bibligare vol.7

まちなか図書館情報紙――[ビブリガーレ]

世界を広げ、まちづくりに繋げる
“知と交流の創造拠点”

特集1 ―― 生きた情報の行き交う空間
特別企画 ―― 松井玲奈さんインタビュー
特集2 ―― おしゃべりな図書館

まちなか図書館情報紙「bibligare」とは
bibliは「本」、ligareは「つながる」を意味し、
本を通して人、街に繋がる図書館をイメージした造語です。

●発行＝豊橋市

生まれるつながりにぎやかなまち

まちなか図書館

生きた情報の行き交う空間

まちなか図書館に集まる情報は本や雑誌だけではありません。
人と人が出会い、そこで生まれる新しい考え方や、
伝わる知識も大切な情報です。そんな出会いを後押しするために、
さまざまなイベントを行っています。

見る・知る・触れる

❶あの人の愛読書
豊橋で活躍する人、ゆかりの人に本を一冊ずつ紹介していただきました。思いのこもった紹介コメントから、その人の素顔が見えるような気がします。

❷エッグアート展示
豊橋在住のアーティスト、クリスティーナ・ブリサカリウさんによる卵の殻を使ったアート作品展示。豊橋産うずらの卵の殻も使われています。

❸とよはしまちなかスロータウン映画祭 二十回のあゆみ展
上映作品のポスターや、懐かしいチラシなどの貴重な資料の数々。積み重ねられた歴史が実感できました。

❹sebone連携展示
都市型アートイベントseboneの作品がまちなか図書館に一子どもたちのつくったお店や、アーティストの様々な作品に来館者の注目が集まりました。

聴く・奏でる

❶まちなかミュージック1
ピアニストの鈴木智子さん、ヴァイオリニストの大竹広治さん、白石里佐子さん、チェリストの堀田祐司さんによるカルテット演奏。

❷まちなかミュージック2
豊橋発アコースティックユニット、弦楽座modeによるギター演奏。

❸まちなかミュージック3
Ashigaruによる、ギターと西アフリカの民族楽器アサラトの演奏。

❹蓄音機de音楽
貴重なSPレコードのコレクションを懐かしい蓄音機で。

聞く・話す

❶トークセッション まちなかを噛みしめる！
広小路三丁目で老舗料理道具専門店「TAKATSU」を営む高津社長に、まちなか図書館スタッフで「愛される名店」企画・執筆の竹本が、まちなかのお店についてお聞きしました。

❷まちなか図書館 開館一カ月！
まちなか図書館長種田と文化・スポーツ部長伊藤が、開館までの道のりや、思い描くこれからの図書館像について語りました。

❸トークセッション まちを育てる話
大豊商店街理事長で建築家の黒野有一郎さんと、ライターとして日本全国を回りまちづくりの現場を見てきた谷亜由子さんによる、本とまちづくりを絡めたお話。

❹演劇で伝える！高校生と民話、市民と妖怪
穂の国とよはし芸術劇場PLATのスタッフによる、豊橋発の演劇についてのお話。

❺『鷗外の怪談』プレトーク
PLATでの公演に先立って行われたプレトークイベント。PLATスタッフの上薬陽子さんとまちなか図書館スタッフ増田が、作品の見所や作品に登場する本の紹介などを交え、やさしく熱く、お話ししました。

❻トークセッション 作家じゃない私たちが本を出版する本当の理由
「豊橋妖怪百物語」著者で「ぱったり堂」代表取締役の内浦有美さんと、まちなか図書館スタッフで「BOOK司書の図書館ライブ」著者の大林による出版と地域に関するトーク。PLATで公演があった「舞踏 豊橋妖怪百物語」の裏話も。

❼だもんで豊橋が好きになる話
「だもんで豊橋が好きって言うとるじゃん！」の佐野妙先生と「意味が分かると怖い話」の藤白圭先生による、豊橋に関するトークセッション。本の豊川堂の高須社長の軽妙な進行で、おふたりの素顔が見えるようなお話が聞けました。

つながる

❶ユースウィーク
産婦人科の先生によるカラダやココロについての悩み相談など、性に関する正しい知識の提供を。

❷まちに飛び出す謎解きラリー&ワークショップ
豊橋創造大学瀧崎ゼミ、勝手にまちなか図書館応援隊による、図書館の内と外をつなぐプログラム。

つくる・まなぶ・体験する

❶まちなか美術館
美術家のナカムラクニオさんによるワークショップで、豊橋のまちなかを題材に絵を描きました。完成した作品は館内に展示されました。

❷プログラミング体験 キュベットやMESHで遊んでみよう！
図書館実務訓練生で豊橋技術科学大学生の多田魁登さんによるプログラミング体験。いろいろな作品を作って楽しみました。

❸花男子によるブーケ作り・花贈り体験
「花のまち豊橋」の、バレンタイン企画です。小学生と保護者がブーケ作りに挑戦。

❹伝統芸能「能楽」に親しむ
文化サロン汐水城の伊藤さん、能楽師の中所さんを講師に、誰でも親しめる能楽にふれました。

豊橋市まちなか図書館 スペシャルライブラリアン 松井玲奈さん インタビュー

まちなか図書館と豊橋の魅力をアピールする「スペシャルライブラリアン」に就任いただいた松井さん。作家として、役者として、鮮烈な表現で読者、観客を魅了しています。今回はその創作の秘密や、豊橋の思い出についてお話を伺いました。

まち図 読書家の松井さん、お忙しいなかで、読書や執筆はどんなときにされているのでしょう。そして松井さんにとって「書くこと」「読むこと」とは？

松井 書く期間を区切って、その期間内に書き上げる、というようにしています。一日のなかでも時間を決め、書けなくてもいいからパソコンの前に座って、作品と向き合います。やってみたいことに日々挑戦しているという感じですね。読むときは一読者として純粋に作品を楽しんでいます。読んだものが自分のなかに残り、後になって書く作品に影響を与えるのでしょうけれど、そこは考え過ぎずに、楽しんで読むことにしています。

まち図 Instagramで詩や短歌などの本を紹介されていますね。決められた「枷」のなかで、空白のある表現を読み手に提供することには興味がありますね。作家のくどうれいんさんの短歌に触れたり、谷川俊太郎さんはスヌーピーの翻訳をきっかけにその詩を読むようになったりしました。小説以外の表現に向き合うことは、自分が書いていくための勉強にもなります。

まち図 小説のアイデアはどんなときに思いつくんですか？

松井 日常のなかで、今書いている話の続きを考えたりはしますね。役者の現場で、休憩中に共演者の方からお聞きしたエピソードにヒントをいただくこともあります。自分と価値観が異なる人の話が、作品に出てくるキャラクターのスパイスになったりします。

まち図 松井さんの作品中では、食べ物がおいしそうに描かれているという印象が強いのですが、食事中に作品のことを考えたりしますか？

松井 食事中は作品のことはあまり考えず、おいしさ、幸せを感じて食べています（笑）。そのおいしさを分析したりはするんですけど。作品のなかの食べ物は、そのシーンに何がふさわしいか、例えば家族団らんの場面だったら山盛りのからあげ！というように考えて書いていることが多いですね。

まち図 作家と役者、ふたつの仕事に共通するところはあるのでしょうか。

松井 小説に登場するキャラクターを頭の中で演じながら書いていることもあれば、監督として撮影をしているような感覚で書いているときもあります。撮影セットのなかにキャラクターたちを置いて、そこで行われている様子や頭のなかにある映像を書き起こしていく、その感じはお芝居をしている感覚に近いのかな、と思ったりします。勝手にキャラクターたちが動き出すのを、監督席から楽しんで見ていることもあります。

まち図 役者の仕事を始める前から文章は書かれていたんですか？

松井 小学生のときに先生に作文を褒められたことがあったんです。「文章を書く仕事をしたら？」と言ってもらって。そんなこともあって文章を書くことは好きだったんですけど、物語を書くことは想像していなかったですね。エッセイや書評のお仕事をいただいて書いていくうちに、マネージャーさんから「物語を書いてみない？」という提案をもらって、挑戦しようと思った、という感じです。好意的な評価をいただいて自信になったということはありますけど、まだまだビギナーズラックと思っています。ここから長編や、たくさんの作品を書いていくうちに、物語を書くことの本当のたいへんさを更にわかっていくのではないかな…。

まち図 豊橋での本にまつわるエピソードや、まちなかでの思い出などあれば教えてください。

松井 実家の近所の本屋さんには週に二回は連れていってもらっていました。ゲームやおもちゃは特別なときだけでしたが、本はいつも好きなものを買ってもらえたので、本屋さんは楽しみな場所でしたね。たくさんの本のなかから、運命の作品と「目が合う」瞬間が楽しかったです。小学校中学校の図書室でもたくさん本を借りていました。子どものころの豊橋の記憶と言えば、百貨店の地下にあるクレープ屋さんが好きでした。両親の買い物中は退屈なんですけど、それを我慢したご褒美にクレープを買ってもらうのが嬉しくて。地下の駐車場で車を降りたときから漂ってくる甘い香りが印象に残っていますね。まちなかでは、水上ビルに新しいお店が入っていたり、きれいになったりして、豊橋に戻ってくるたびに変わっていく街並みに驚いています。

まち図 本日はありがとうございました。まちなか図書館にもぜひお越しください！

松井 もちろん！

おしゃべりな図書館

～バックヤード通信～ 一緒に図書館を作っていく仲間を作りたい

まちなか図書館が開館する、およそ半年前の5月から始動したInstagram。当然ながらフォロワー0人から始まったこのアカウントも、今では3,500人を超えました。（3月10日時点）建物が出来上がってもいなかった頃から始めた理由の一つに、「一緒に図書館を作っていく仲間を作りたい」という思いがありました。本を選んでいる様子、建物が出来上がっていく様子…そんな様子を見守ってもらいたいし、開館までの機運を高められたらと思っていました。また、「まちと繋がる」ことを意識して、ビブリガーレを配り歩く様子も積極的に出していきました。ご協力いただいた皆様、この場を借りてお礼申し上げます。

これまでのInstagramの投稿は、いわば〝種まき〟。まちなか図書館を知ってもらい、ファンになってもらい、一緒に図書館を作っていく仲間を増やしていくための種まきです。（実際にまちなか図書館で行われた企画には、フォロワーの方に声をかけた物もあります）

これからも種はまき続けますが、まいた種は芽吹き、いずれ実を結ぶはず。種をまきっ放しで終わらないように、フォロワーの皆さんと一緒に収穫していけたら良いなと思います。これからもまちなか図書館を「フォロー」してくれる大切な「フォロワー」として、皆さんよろしくお願いいたします！

まちなか図書館司書の業務報告

特集展示は力仕事?! 第四金曜日のまちなか図書館

司書A さあさあ、月に一度の休館日。やることたくさんあるよ！

司書B だよね、お客さんいるときにはできないこと、多いもん。

司書C そうそう、いくらにぎやかなまちなか図書館でも、開館中に「おりゃー」とか「うりゃー」とか声を上げるわけにはいかんもんね。

司書A そりゃそうだわ～。まずは特集展示の入れ替えだね。

司書B これまでの特集の本を引き上げて…。

司書C データの変更を忘れないようにね。

司書A 予約が入っているかもしれないから気をつけて。

司書B そうだね、特集展示の期間中は貸出してないから。

司書C 「借りられないのか～、残念」ってお客さん、多いよ。

司書A ほんと申し訳ないんだけど、特集展示は「こんな本がありますよ！」ってたくさんの人に見てもらうようにやっとるだもんで。そこは理解してもらうまい。

司書B だよね、展示期間が過ぎれば借りられるし。

司書C 予約もできるしね。

司書A 次は新しい特集の本を並べるよ。このコンテナだね？

司書B そうそう、じゃ運ぶよ。せーの、おりゃー。

司書C そしたら新しい特集のポスター入れた木枠を壁にかけるね。

司書A これはめちゃ重いから二人がかりね。せーの…

司書AC うりゃー！

司書B これは開館中にはできんわ～。

bibligare コラム

シライミュージック 白井としみつ

文化をつくる図書館

シライミュージックは、豊橋で行うイベントを全国に伝えるため、インターネットを使ったライブ配信を10年ほど前から行ってきました。その経験を生かして配信スタッフとして出張する事も増えています。まちなか図書館のオープニングイベントの1つである、佐野妙先生と藤白圭先生のトークイベントの配信が決まった事をきっかけに、図書館のオープニングイベントメインステージの全体の配信技術担当として関わり、多彩なプログラムをライブ配信しました。地元豊橋の人が登壇する、市民の文化に目が向いた企画は、まちなか図書館のベクトルを汲み取ることができるユニークなものでした。

ライブ配信により、豊橋に住んでいても出かけられない人や、遠方の人にもイベントを届ける事ができます。コメントを書き込み、SNSで感想を書くことで、共通の興味の人と知り合うことができ、配信で参加する面白さもあります。アーカイブが残ると、イベントの時間が自分の予定と合わなくても見ることができます。配信はイベントに参加したい人にとって、良い事ばかりだと思います。

講演する側から見るとどうでしょう。イベントの登壇者や企画立案する人達は、配信が未経験の方も多く、難しさを感じる事もあります。「自分の発言が記録に残るのは怖い」「誰が聞いているかわからないから怖い」という気持ちがある人も多いでしょう。今、さまざまなマナーや価値感が進化し、社会発展段階の断層で生きる自分の発言を記録される事を危険と感じるのは当然の事です。

先輩達が、時代の断層をどう乗り越えてきたかを考えてみましょう。本はアーカイブされ書籍として出版（配信）されます。書籍が、重版・再版になるとき、訂正や注釈をつけたり、リメイクされたり、場合によっては漫画化されたり、その書籍を解析する書籍が登場したり。イベント配信のアーカイブもそれに近い状態にできるはずです。古い価値観のアーカイブも、その時代の資料として、図書館でゾーニングすることも可能です。記録を参照し反省して進化した社会に対応し、アップデートしたイベントを続ける事が大切だと思います。

人生には沢山の偶然がありますが、まちなか図書館の書架のように、テーマごとに集まった本の周りに行くと「偶然の出会い」の確率があがります。現実世界のコミュニティーの機能をインターネット上に作ったSNS。それをまた現実世界のコミュニケーションの場としてアップデートしたような図書館。テーマでの集まりから、まちなか図書館でのイベントとして発表をする場を作る事で、豊橋の多様な文化も外に発信されていきます。

与えられる文化でなく、自分たちで文化を作るたくましい図書館の姿勢に影響され、私自身も図書館のイベントで出会った人との交流がはじまりました。先が読めない時代に開館したまちなか図書館が、新しい時代の図書館として、これからどんな事をしていくのかとても楽しみです。

まちなか図書館

所在地……豊橋市駅前大通二丁目81番地［emCAMPUS EAST 2階・3階］

開館時間……9時～21時

休館日……第4金曜日（祝日のときは前日）年末年始、特別整理期間

お問合せ……電話 0532-21-5518

詳しい内容については、ホームページをご覧ください。

「豊橋市まちなか図書館」で検索

公式アカウント

LINE

Instagram

■発行日―令和4年3月
■制作―株式会社 エクスラージ
アートディレクター・共田慎性
デザイン・山本訓之